

No.75 contents

- 2 春季二科展開催
- 3 〈絵画〉春季展に想うこと
- 4 〈絵画〉春季展受賞作品寸評 私の選ぶ作品寸評
- 6 〈彫刻〉総評 細井良夫先生の思い出
- 7 〈彫刻〉受賞選抜者作品
- 8 第103回二科展巡回展 2019春季二科展 選抜出品者
- 11 バリ賞研修報告 第104回二科展巡回展日程(予定)
- 12 第104回展に向けて 支部通信
(愛媛支部・高知支部合同展 沖縄支部支援 熊本・長崎合同絵画展
北海道支部展 東北支部連合展)
- 13 Q & A 二科会の支部についてもっと知りたい!!
- 14 第41回定時会員総会 「キッズゲルニカ」国際プロジェクトコラボ
- 15 計報 第104回二科展 コラボ展示・イベントのご案内
- 16 第104回二科展日程表 お知らせ 短信 事務局だより
2019春季二科展の展示者数と展示点数 編集後記



春季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<https://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646



表紙：黒川彰夫



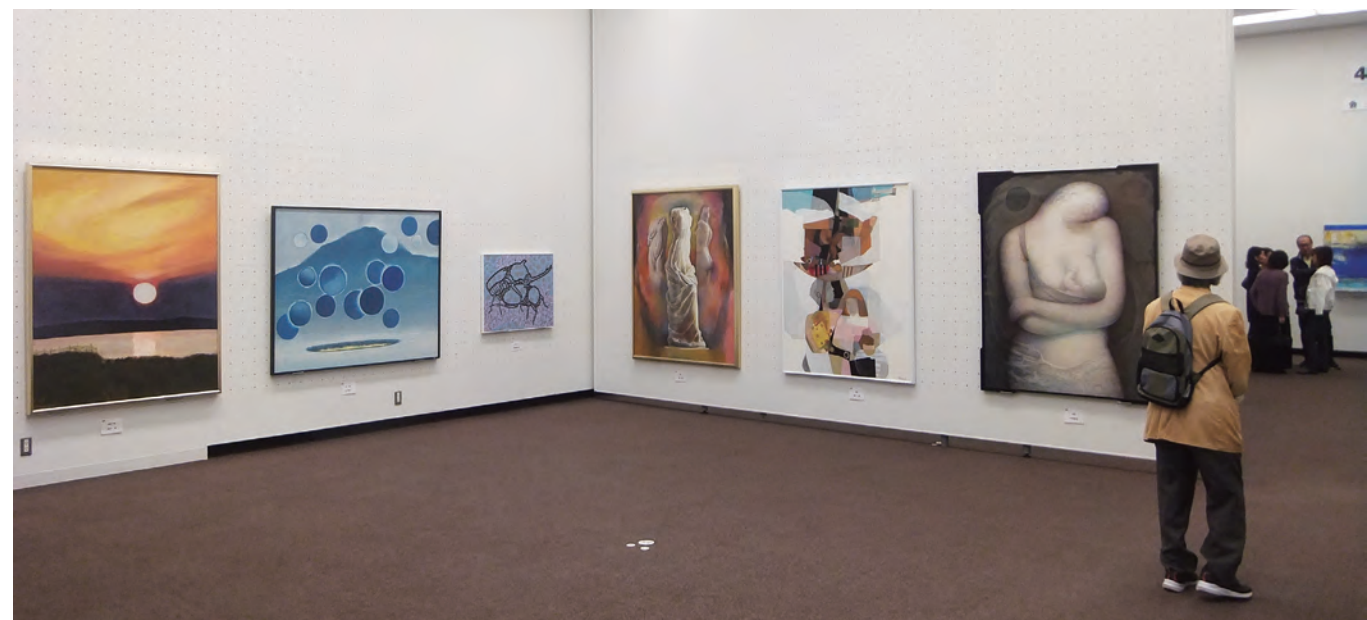
ギャラリートーク



春季二科賞 津田佐千子さん



レセプション 乾杯・菅原常務理事



会員展示 3室

絵画部
春季展に想うこと
中原史雄

いきなり私事で恐縮だが、この歳になり、見えなかったものが少し視えてきて、描くことがより面白くなった。しかし、思い違いや忘れることが日常で、思わずため息をつく今日この頃である。

留まって、会が目指す新進作家育成を感じさせてくれた。春季二科賞は石川県の津田さんに輝き、春季賞は神奈川の縄井さんと鹿兒島の吉元さんが受賞。会員81名による投票だったが、地域の片寄りもなく決めることが出来たのもよかった。

さて、この展覧会のもう一つの趣旨は、会員が実験的作品を発表することとされているが、会場には100号や50号の作品がずらりと並んでいて、新しい試みの形跡はあまり感じられないの

が残念である。改めて一人一人がチャレンジする姿勢を持つことを前提として、単に空間が足りないからではなく、秋の本展とは異なった魅力的な展覧会とするためには何をすべきかの見直しが必要だろう。

二科展が上野から六本木に移った平成19年7月、当時の織田理事長名で役員選挙検討委員会の委員委嘱状が届いた。絵画部5名、彫刻部3名、委員長は田中良理事長だった。何回もの熱い議論の末、役員選挙の枠

を超えた改革を答申、それが今日の公平な審査の土台になっている。その会議のなかで、評議員の存在を重視しようとの合意があったように思っている。

公募展を取り巻く状況が厳しいなか、一生懸命やるだけではなく柔軟な発想の転換が求められる。そこで、頭が固くなってきた私の提案ではあるが、まずは春季展の在り方について、次世代の協力を要請してみたいと思うのだが……。



会員展示 10室



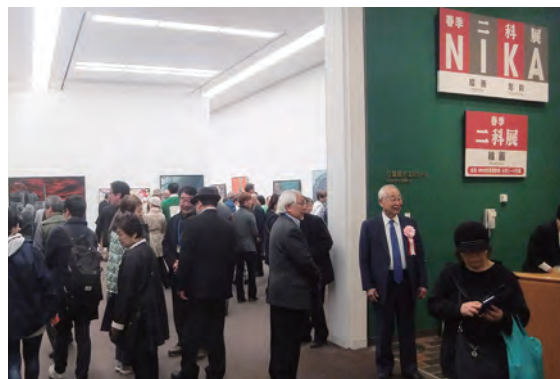
選抜作家展示 2室



選抜作家展示 1室

2019春季二科展

2019. 4. 17~4. 24
東京都美術館



会場入口

新緑目映い上野。東京都美術館で、平成最後の春季二科展が開催された。春季展は会員と、昨年の二科展受賞者から選抜された者の作品展示である。初日は平日であるにもかかわらず参観者の長蛇の列に、改めて伝統の重みと、その責任を

痛感した。今年は絵画・彫刻の展示委員が数回に及ぶ話し合いで融合展示を試みた結果、従来とは少し違った雰囲気での展示となった。出品者の高齢化が進む中、励まし合い、反省して、秋の第104回二科展に備えて努力を重ねたい。

春季二科展 開催

田中 良

私の選ぶ作品寸評 戸狩公久・須藤愛子・矢野兼三会員



中澤 純代 「朝が来る、今日は晴れ」 F100



森 泰秀 「月の引力の見える街」 F100



大西 敏志 「陽光の悪戯」 S80

中澤純代
実に思い切った画面。恐らくこの樹木・トルソの上部には青空が拡がり、その先の葉は陽の中で煌めいていることだろう。よく見ると背部は直截な線。中央のトルソが有機的な筆致に反して無機的。ともすると泥臭くなりがちな画面を見事に現代感覚に持っていっている。
(須藤)

森 泰秀
とにかくタイトルが凄い。画面全体は非常に美しく滑らかな筆致が心地よい。創り手は月の引力に出会ったチャンスに感動し息を飲み一気に陶酔し描いたようだ。筆の置き方にも息づかいが感じられる。なかなか表現し得ない見事な作品である。
(須藤)

大西敏志
やや俯瞰した真昼の砂浜に影を落とした瞬間を捉えたユニークな画面構成。空気が十分に伝わる素敵な作品。欲を云えば観る者をもっと釘付けにする何かがあれば……。具体的には、もう少し陽と影のコントラストが明確な部分があってもよいのでは、と思う。
(須藤)



松永 長信 「蝶番」 F100



岡山 芳彦 「届けたい風景」 F80



加藤 弘子 「忘れられた時」 F130

松永長信
古い蔵の扉を繋ぐ蝶番に焦点を絞り、青錆、剥げた漆喰、土壁の罅で時の経過を見せ、長い年月を経て幾層もの土壁を突き抜けた穴の奥の深い暗闇に、画家は何を見るのか？ 漆喰の白、黄土色・グレー・茶・赤の壁の淡い色合いの変化が心地よい。
(矢野)

岡山芳彦
雲の動き、風に翻弄される木々やスキの枯草の表現に気取り力みなく、リズムミカルに表現した雲の形・色の変化が、心地よく見る側に伝わる。率直、素朴な表現を大事にしなが、単に静かな風景画に留まらない姿勢に共感を覚えます。
(矢野)

加藤弘子
廃屋にこたわり、隅々まで丁寧に、誠実に描く姿勢に好感を覚える。何故薔薇？と思うが、天井の隙間や硝子戸が消失した窓から差し込む光線や置き去りの家具等役者は揃っており、もう少し暗色・寒色を使い、陰影を効かせても良かったのでは？
(矢野)

春季展 受賞作品寸評



吉元 かつ子 「春の恵み」 S120



縄井 かつみ 「時」 S100

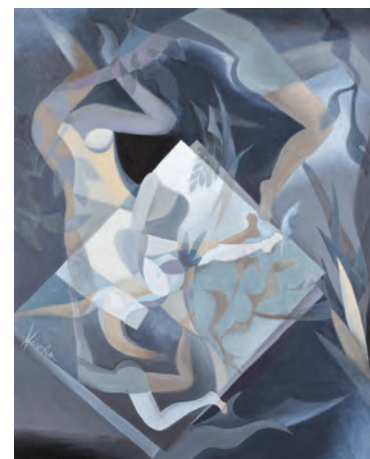


津田 佐千子 「東風のかたち」 F130

■春季賞 吉元かつ子
日常身辺にある野菜を扱った作品。何の変哲もないキャベツの大写し、120号の大作の前に人々は、自分が小鳥か虫になった様な気分で見上げる。目の前に克明に葉脈が展開すると、線条にリズムが生まれ、不思議な魅力に繋がる。作者の発想と技量を評価したい。
(松室 重親)

■春季賞 縄井かつみ
仰向けの裸像に全身の傷跡を描き、現代の災害体験と不安や恐れのかなり印象的な作品。此の様なモチーフに人体を扱うのは、難しいが、一見して様々な連想を起こさせる絵として成功している。黒い筆が少し汚れに見えるが、整理して象徴化できたらと思う。
(松室 重親)

■春季二科賞 津田佐千子
抽象に近く、青いモノトーンのダブルイメージ。人体の手指と他の文様などを同化させ、中心に画面構成した気持ち良い佳作。日常、目にする対象物を、此のメソッドを駆使してセンスを磨き、色彩を加えて作画を自由に創作し、良い作品を期待したい。
(松室 重親)



糸曾 ひろこ 「収穫の祝い」 F100



葛西 裕子 「繫」 F100



鈴田 文明 「吉祥寺ベルギー館」 F80

糸曾ひろこ
形と空間の組み合わせに、緊張感がありグレーの品ある色彩が効果的に伝わります。内在する、生命感の様なエネルギーを感じます。縦構図が効果的です。マチエール(絵肌)が今後の課題かと思っています。
(戸狩)

葛西裕子
奥深い自分探しの構成。画面中央の前景、中景、遠景が幻想的で画面を引き締めています。ロープの動きが生物の印象を感じます。左側の彩度が明る過ぎます。色彩と形の総合的なバランスを試みてください。
(戸狩)

鈴田文明
魚眼レンズで見た心象風景。奥深い描写力が加わり、色彩に深みを感じられます。大胆な構成と精密描写が、異次元の世界に引き込まれます。画面全体の光と影が強く印象に残ります。今後の展開に期待します！
(戸狩)

受賞選抜者作品



長谷川 登 「光滲」



藤沢 恵 「領域」



町田 至 「しなやかなやつ」



玉田 真理 「壁に耳あり 障子にメアリー」



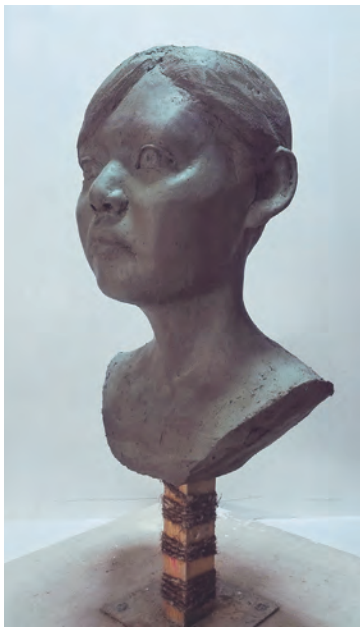
大坪 義武 「Chalk up 3」



澤田 志功 「太陰暦2019」



柴崎 益代 「月夜に」



小野寺 加那 「true to myself」

彫刻部

春季二科展総評

登坂 秀雄

新緑の上野公園内東京都美術館で、4月17日から24日まで、2019春季二科展が開催されました。彫刻の展示点数は、例年

より多く60点の出品となりました。

会場スペース等の関係で小品の作品ではありますが、緻密な作品が多い事に感心

させられました。近年、殊に技術技法の向上が感じられます。

春季展では、会員の実験的作品の発表と新進作家の育成を謳っていますが、若い出品者の中で秋の本展に向けた制作動向に期待したい作品が見られた事は嬉しく楽しみな所であります。

現在、展示委員を中心に絵画との話し合いも含め、会場の展示方法を模索し、改革を試みている段階にあります。

昨年の春季展より、絵画部と彫刻部の話し合いもたれ(展示委員間で)融合展示が試みられています。昨年は展示室の幾つかに数点ずつの彫刻作品が混入する形が試みられました。彫刻部の反省点として、展示室の中心部分の照明の暗さの問題があり、スポットライト借用が決定されました。

本年の融合展示では、昨年同様に幾つかの絵画展示空間の中に二点ほどずつの彫刻が配置される試みがなされました。また、彫刻が主体の展示空間に7点ほどの絵画の展示も試みられました。絵画展示空間における彫刻へのスポットライト照明は、展示空間を考慮して50パーセントほどに照度を

落としましたが効果が認められ、よかったと思います。

絵画部と彫刻部の融合展示という考え方は、新たな思索を生み出す期待感を持たせてくれます。昨年と今年の試みに関しては、反省会も含め、厳しい意見も多く課題が多い事も浮かび上がりました。今後も前向きに取り組まれていく事を期待したいと思います。

本年の春季展出品者は例年より多かったとはじめに記しましたが、寂しく感じられたことがあります。例年意欲作を出品されている数名の中堅会員が出品されなかった事が気にかかる所です。中堅会員の方々は、特に社会的に期待され、忙しい年齢の作家であると思われませんが、二科会彫刻部は自分が背負うくらいの自負を持ち、会場を賑わしていたきたいと期待いたします。

20世紀初頭の芸術運動時に比して、21世紀の近年は殊に作家の個人主義的傾向が強いと感じます。各世代が混在する公募展の中で融合展示を考える時、同世代間の時代認識の共通性を考慮に入れる事も一考かと思われま

細井良夫先生の思い出

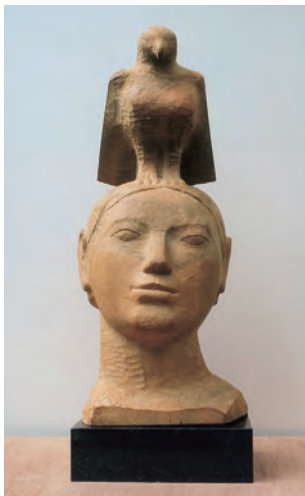
菅原 二郎

私が大学に入學した当時、石彫実習で細井先生をはじめ先輩方からハンマーの柄の握え方、鑿作り、焼き入れ、鑿切り等の石彫の基礎を教えていただいた。当時石を動かすのにフォークリフトは無く、てこ、箱ジャッキ、三又、チェーンブロック、コロ、道板などの原始的な道具を使い、近くに居る者が手伝うのが当たり前、先輩方が率先して取りかかり、我々後輩がそれを見て、手伝いながらそれらの道具の使い方を覚え、仲間意識、一体感を自然に身に付けていった。そのリーダー的な存在が細井先生だった。

4年の夏、先生のご実家、福島県田島山中に於いて今でいうシンポジウムを企画され、私を含め4人で川から石を引き上げ川岸、道路わきで個々の制作をし、それを二科展等公募展に出品した。これは制作の段階から現実社会の中に飛び出していく、という画期的な考えであった。この体験から学んだ事が後に仲間と福島黒御影、北木島の石切り場での制作等につながり、ヨーロッパでのシンポジウム参加、制作発表活動につながる足がかりになった。

このように私の中に彫刻の種を植えていただいたのが細井先生です。ありがとうございました。

合掌



「ガルーダのようにーミドリー」
第99回展出品作



大阪展は、10月30日より11月11日まで天王寺公園内の大阪市立美術館で開催しました。
大阪、兵庫、奈良、和歌山在住の支部メンバー（会員10名、会友20名、一般55名）



による出品作品と、全国巡回作品全点、及び京都・滋賀会員の大作作品を加えた216点の絵画作品に、彫刻部作品13点、デザイン部作品204点、写真部作品227点を加えた総点数660点の展示です。
本年度も会期中の文化の日、ロビーコンサートを催し、音楽と共に来場者に芸術の秋を体感していただきました。また、絵画部による二科展出品希望者のための「ワンポイントアドバイス」や、家族三代でアールに親しんでもらえる「第67回こども二科展」を併催。

デザイン部主催の「第16回全国ポストカード大賞展」も、様々な世代の関心を受け好評でした。好天にも恵まれ、多くの来場者で賑わう展覧会となり、「なにわの秋の文化イベント」として大いに盛り上がりました。
来場者数は16,004人。昨年度より数字は落ち込みましたが、有料入場者率は伸びており、地域からの関心は高まっているように感じられます。さらに多くの人々の注目を集められるように、この大阪展を盛り上げていきたいと願っています。（高畑彰）



広島では正月明けが恒例となっている二科展巡回展。今年も1月15日、広島県立美術館県民ギャラリーで初日を迎えた。今年の出展数は巡回作品に地元



作品218点を加えた4部門585点。入場者数は昨年より1,000人程多い7,335人に来場頂き大変盛況な展覧会となりました。又、今回は巡回展企画として本部より中原理事をお迎えした講演会『自分らしい作品づくり』を開催することができ、地元同人以外に岡山支部同人や一般の美術愛好者の参加を頂き、貴重な経験をさせて頂きました。中原先生には翌日も会場作品講評にお時間を割いて頂き有難うございました。今回の会場構成は10年ほ

ど続いたレイアウトを一新、2段掛で圧迫感があつた会場を開放的で見易い配置を試みました。会場入口から絵画部、写真部のコーナーが一望出来、来館者や各部同人にも概ね好評でした。巡回展開催に際し、本部の先生方にはご支援いただき有難うございました。また、各部同人の皆様も部門を越えたご協力お疲れさまでした。
広島巡回展は諸先輩が築いてきた伝統をこれからも繋げたいと願っています。（高藤博行）



今年も京都市美術館本館工事のため、別館での開催となりました。
昨年一度経験した会場のため、展示はスムーズに進みました。二階展示室に絵画部の地元作家として受賞作品と会員の大作。一階展示室には絵画部会員の巡回展作品と一部の受賞作品。彫刻部、デザイン部、写真部も一階での展示となりました。展示数は、総数288点（絵画116点、彫刻12点、デザイン61点、写真99点）と昨年の281点より多くなりました。



会期は昨年同様の6日間でしたが、入場者数は昨年の3,949人から4,339人と増加し、写真部、絵画部のギャラリートーク、ギャラリートークなどのイベントも昨年同様に開催しました。受賞



者は、絵画部で内閣総理大臣賞に黒川彰夫、会員賞に石橋国夫、北村美佳、石田勝己、会友賞に的場五十彦、三津川好則、柳澤綾子の7名で一般の受賞者がなく次回に期待するところです。またデザイン部は会友推挙に小出富子、写真部は会友推挙に三沢勇典、イラストウエスト賞に松田博光の受賞がありました。
京都、滋賀でも年々出品者の減少があり、各部出品者の確保が今後の課題となっています。（黒川彰夫）

◆2019春季二科展 選拔出品者	
絵画部	
(会友)	縄井 かつみ〔神奈川〕 星野 敦郎〔新潟〕 川畑 清美〔鹿児島〕 高木 陽子〔神奈川〕 津田 佐千子〔石川〕 後藤 寿美子〔熊本〕
(一般)	有澤 英子〔石川〕 井川 誠一〔大阪〕 池杉 拓海〔神奈川〕 糸曾 ひろこ〔東京〕 稲田 泰樹〔静岡〕 大槻 美菜実〔茨城〕 大西 敏志〔神奈川〕 大西 正昭〔福岡〕 大原 郁香〔広島〕
	岡山 芳彦〔茨城〕 加藤 弘子〔埼玉〕 小原 禎二〔神奈川〕 須田 ひろ子〔山梨〕 中澤 純代〔東京〕 畠中 富雄〔大阪〕 松永 信熊〔熊本〕 森 泰秀〔佐賀〕 吉元 かつこ〔鹿児島〕
彫刻部	
(会友)	長谷川 登〔東京〕 藤沢 恵〔埼玉〕 町田 至〔山形〕
(一般)	大坪 義武〔静岡〕 玉田 真理〔神奈川〕 澤田 志功〔埼玉〕 小野寺 加那〔東京〕 柴崎 益代〔群馬〕

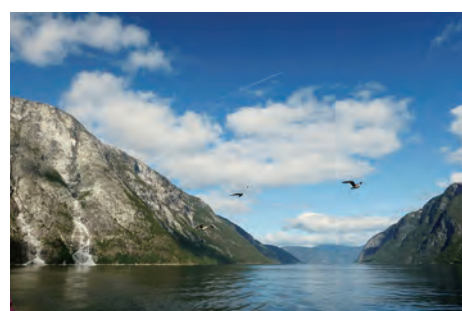


北欧4力国と
フィヨルドを訪ねて
清水英子
(第102回展 パリ賞)

8月18日に成田からストックホルムに向かった。ノール賞授賞式の会場の市庁舎・王宮・旧市街自由行動等、王宮地下3階の馬車見学。此処では一日2時間程度散策。乗り物移動時間が多い分、長時間歩行は無いと目論んだが、王宮の中は広大で足元の砂利や石畳はかなり歩きにくく、神経質に歩く石畳の散策は苦痛で、念のため車椅子を予約し正解だった。
次はベルゲンに向かう。

港はハンザ同盟の商業の中心時代からの古なる建物がある。そのまま保存され、床板は軋み、内部はお土産店に変貌し観光客でごった返している。喧騒をのがれ路地の奥の小さな手編みニット店で寒さ対策用にロングカーディガンを選ぶ。お天気も良く、巨大な帆船やヨット、クルーザーを眺めるのはとても懐かしい気持ちになる。船着場のデッキの上から真下の海を眺めると、水の透明度・色合・深さや海の小動物、生物が見えたりするが、北欧の海は緑色、8月でも海水温が低いいためか、なかなか海の生物は出て来てくれない。バスに乗りしてハダンゲルフィヨルド沿いをドライブ。ノルウェーの森は想像と異なり細い木が目立ち、質問すると「岩盤質の土壌に気温が寒すぎて樹が大きく育たない」とのこと。

車窓からの眺めに突然ステインスタンダールの滝が岩盤の壁から出現、滝の裏側も歩けるが、水量も多く滝壺付近の方が興味を引かれた。小さな滝や水の流れが無数に観察出来、民家の庭先に野生の狐が姿勢を低くし腹這前進する姿、羊の群れが道路を横断、深まる緑の間から水辺が広がりだして待望のフィヨルドに近づいてきた。遠くに大きなクルーザーが停泊しているのが見え、宿泊の「エイドフィヨルド目の前ホテル」の停船場にその巨大船は着岸していて、部屋からの景観は遮られている。荷解きしている間に音も無く静かに離岸する「バイキング号」を見送り、改めてエイドフィヨルドを眺めた時には涙目になる。



夕日(雨)を見逃したので、翌日には朝日を眺めようとダウンコートを着込み(気温は5℃位)船着場に行くと、氷河に削られ切り立つ岩盤の壁には森林限界線(800〜1000m)が見てとれ、どんよりした空模様に向きが全く判らない感覚麻痺。恐る恐る棧橋から真下を眺めてみると、海水の透明度はあっても、フィヨルドの最大深度は1300mだそうで全く何も見えず、何億年もの氷河パワーを感じる。肝心の朝日は、岸からそびえる岩壁と峰々に阻まれ、うっすらピンクに染まった雲が僅かに確認できただけだった。この日はグドヴァンゲンからフェリー乗船。フロム鉄道へ雄大なフィヨルド三昧の一日だった。記録的な猛暑のノルウェーで、いつもなら見て取れる山頂付近の氷河・雪渓も残念な事に殆ど融けていて、もう一度雪の季節に来たいと心に刻

みオスロに向う。オスロまでの道中、森林限界線超えのナショナルジオグラフィックの岩だらけの荒々しい大地は見渡す限り続き、天空は灰色の雲が低く垂れ込みどんよりして雨混じり、細々とした木々が生え民家もまばらな街道も続き、そこに現れたロマネスク様式時代の古びた木造スタープス教会が印象的だ。雨上がりのオスロの国立美術館では、複数現存中の最初に描かれた叫びの「只者」では無いこの存在感。家族の死因や一人残された者で在るムンクの魂を意識せずにはいられないのはノルウェーの大地を観てから来たからだろうか。

この後、船中泊後コペンハーゲンへ。大好きな美しい磁器を堪能後、飛行機で最後の目的地ヘルシンキを観光、足早に帰路となった。

8日間の添乗員同行型ツアーで、言葉の壁も緊張感も感ずる事も無く終始観光客気分でごろし反省しているが、このような機会を得た事にとっても感謝致し、今後の制作に生かせるかは未知数ですが、変わらぬ方向性で精進を重ね努力して参ります。

◆福岡展
福岡県立美術館
令和2年3月17日(火)
〜3月22日(日)

◆鹿児島展
鹿児島県歴史資料センター
令和2年3月7日(土)
〜3月15日(日)

◆広島展
広島県立美術館
令和2年1月14日(火)
〜1月19日(日)

◆東海展
愛知県美術館ギャラリー
令和元年12月10日(火)
〜12月15日(日)

◆京都展
京都市美術館 別館
令和元年11月12日(火)
〜11月17日(日)

◆大阪展
大阪市立美術館
令和元年10月30日(水)
〜11月10日(日)

◆金沢展
金沢21世紀美術館
令和元年10月3日(木)
〜10月14日(月)

◆第104回二科展
巡回展日程(予定)



鹿児島での開催が69回目となる第103回二科展巡回鹿児島展は、地元作家の作品を含む絵画、彫刻、デザイン、写真の作品300点(絵画110、彫刻10、デザイン90、写真90)が展示され、盛大に開催されま

した。オープニングでは来賓に加え、唐湊幼稚園の皆さんを招き、初日から多くの美術ファンで賑わいました。また、会期中には会員・会友によるギャラリートークを行い、それぞれ特徴のある内容でお客様に楽しんでいただけました。会場の一隅には2月に逝去された故鳥取政昭会員、今村恵美子同人、昨年逝去された故犬童次夫会員、有水基雄会員の作品を展示し、在りし日の姿を鑑賞者とともに偲びました。他に支部同人の小品作品のチャリティ販売を行いました。毎年、観覧して下さって

る方々にはすっかり定着している様子が窺えました。一方、担当者から役割分担や会場サインなど、全体を見渡しながらの細かな指示や準備があり、支部同人全体の協力によってスムーズな運営がなされました。鹿児島の春の風物詩ともいえる巡回展ですが、昨年より2日短い会期であったにもかかわらず、入場者は2,646人。さらに充実した展覧会となるよう今回の課題を整理して次回につなげていきたいと思います。(野平智広)

福岡市美術館、北九州市立美術館の大幅改装に伴い、福岡巡回展を取りやめる公募展が多い中、何とかこの3年間で福岡県立美術館で開催することができたことに安堵しています。今回は受賞者は例年よりやや少なかったのですが、

2点入選者が14名と急激に増え、会場には活気が感じられました。会場が狭いのですが、3年目と言うこともあり、田牧会友の事前の計画的取組みで、展示作業がスムーズに行われ、メリハリのきいた会場になったのではないかと思います。西日本新聞、有明新報、テレビ西日本FNNプライムニュース等でも展覧会の様子が紹介され、入場者数は、第1会場と第2会場を合わせると5,421人となり多くの賑わいを見せました。

毎年会期前日に、前夜祭を行います。絵画部の西健吉理事、写真部の近藤誠宏理事長をお迎えし、美術関係者他多数のご来賓と、共同主催者の方々にご列席いただき大変盛り上がりま

また、例年開催の関連事業ギャラリートークも初日の西先生を筆頭に毎日地元

第104回二科展に向けて

二科会の支部についてもっと知りたい！！

Q どの地域にも支部はありますか？

あります。全国都道府県に県の支部や連合支部があり全国組織になっています。

Q なぜ二科会は公益社団法人で、二科支部は任意団体になっているんですか？

全国の各支部がそれぞれの歴史と独自性をもって自主運営できるようにするためです。本部の下部組織ではなく、本部と理念を共にする二科を支える屋台骨である基礎組織と言えます。二科会や二科展は支部活動によって成り立っています。

Q 支部に参加するメリットは何ですか？

支部展や研究会で会員の先生方から作品や出品についてアドバイスや指導を受けたりすることで、二科展出品作の研究になります。ともに研鑽するお仲間ができます。出品する際、搬入の個人負担経費が軽減されます。

Q どうしたら支部に参加できますか？

初めて出品される方や支部の参加についてのお問い合わせは、出品要綱にある支部連絡先一覧表を見てお気軽にご相談ください。支部同人になる資格や会費は支部により異なりますが、できるだけ経費負担が少ないよう同人一同努力しています。

Q 二科展に出品する以上、必ず支部に入らなければいけませんか？

いいえ。支部参加を奨励しますが義務ではありません。自由意思を尊重します。ご自身で判断してください。

Q ある県の支部に入っていましたが、違う県に引っ越しをしました。2つの県の支部に所属することは可能ですか？

在住している地域の支部に参加することが原則ですが、厳密な規則はなく二重在籍は可能です。ただし負担も増えますので双方の支部長に相談しベストな選択をすると良いでしょう。

Q 支部に参加すると審査に有利ですか？審査員の多い支部ほど有利ですか？

リアルな質問ですね。まず不利になることは有りません。支部に属する会員審査員はもちろん支部の出品者を応援しますが、二科会は会員全員による挙手制度による審査を実施しています。ですから間違いなく完全に作品本位で入落や賞が決まりますので、有利不利は心配しない方が良いです。そのための全国会員による審査です。

第5回 二科東北支部連合展

令和元年 6月21日～6月25日
せんだいメディアテーク

震災で混沌とした東北において、二科会の多大なお力添えがあり、第1回二科東北支部連合展が開催されたのが4年前でした。その間、多数の方に来場いただきました。理事長の田中先生をはじめ理事等の先生方に懇切なご指導をいただき、二科展では各種賞を受賞し、会員推挙3名、会友推挙4名と同人個々の資質が向上してきました。

現在、同人が増え、48名が第5回展に出品しました。当展により、二科の輪が東北に広がってきたことが大きな成果です。
(二科東北支部連合 代表 及川 英之)

Q 会友や会員推挙と支部活動の関係は？

これも大事な質問ですね。入落や賞審査は作品本位ですが、会員や会友に推挙されるためには、二科会の定款上、公益社団法人二科会の構成員として作品はもちろんのこと、人格や会に貢献する資質が推薦条件に加味されます。ですから支部に貢献する姿勢や活動はとても大切ですね。ただし支部に所属していなければ推挙されないということは有りません。

Q 支部に会員・審査員が在籍しない地域もあると思いますが…？

そうなんです。二科会では会員のいない地域でも、理事、監事、評議員、会員が担当を決めて全国的な支援体制を敷いています。具体的に希望があれば担当者がアドバイスや相談に応じ、作品研究会を開いたりして、担当理事、評議員、会員が支部長や同人を応援します。誰が担当者かわからないときは本部事務局に問い合わせてください。

Q 支部間の交流はあるのですか？

二科展開催時期には、全国の支部長会議を開催し、各支部の活動状況について意見交換をして支部運営に役立てています。

Q 巡回展と連合展と支部展の違いは？

巡回展は二科会本部が運営企画する本展の巡回展で、支部展は各地域の支部同人が運営企画する展覧会です。連合展は連合支部が主催で本部が共催として応援の形をとることが多いです。巡回展は開催地の支部展を同時開催し、巡回展で会員の作品と支部同人の作品を同時に展示することで、地域の活性化や二科会を知っていただく重要な展覧会です。また巡回展が開催されない地域では東北支部連合展のように支部連合展を開催する場合、本部より芸術振興金として経費を援助し、理事の賛助出品や講評会も実施しています。

Q 支部展はどの地域や県で二科本展のように絵画・彫刻・デザイン・写真4部門で開催しているのですか？

4部門開催が理想ですが、支部や地域の展示環境や出品者状況が違いますので、4部門とは限らずそれぞれ参加部門を決めています。また後進育成としてジュニアや学生部門の公募部門を開催し好評を博している支部もあります。

最後に

支部は自分の作品を向上させ相互研鑽できる、卒業のない美術大学のような研究組織です。皆さんで、二科会や二科支部を盛り上げていきましょう。

第19回 北海道支部展を終えて

令和元年 5月14日～5月19日
大丸藤井セントラル7F スカイホール

ライラックの花と新緑の最も美しい季節に、第19回北海道支部展が行われました。支部2度目の勉強会には、ご来道の生方理事、香川理事、埴事務局長、各先生のご指導のもと、和やかで真剣に作品に向き合うまなざしに感銘を受け、実りのある会となりました。同人13名と小さな支部ですが、全道からの公募を通し新進作家、新人、同人の鋭意作品に精進し研鑽の場となるよう努力しております。
(北海道支部長 飯田由美子)

支部通信

今回は、隣接地区の合同展、本部支援などの報告です。

二科沖縄支部支援について

沖縄担当理事 西 健吉

二科沖縄支部は、彫刻部会員、西村貞雄支部長のもと、現在、同人10名で、定期的に研修会を行うなどの活動を続けています。

二科展への出品者は、地域的なハンディが大きく、同人の約半数となっています。

今年6月18日から6月23日まで那覇市民ギャラリーで、61回目となる支部展が開催されます。支部展会期中に赴き、作品合評会、研修会を通して、活性化に向けて取り組みます。

第1回 二科展出品者 熊本・長崎合同絵画展

平成31年 1月29日～2月3日 熊本県立美術館分館

本年1月29日から2月3日迄の6日間、熊本県立美術館分館にて、熊本19名・長崎11名、計30名が、二科展受賞作など含め大作を計65点、一堂に展示しました。展示終了後の夕刻より懇親会を開き、親睦を深めることが出来ました。

初日は、オープンと同時に、NHKの取材班の方々にご来場頂き、長時間取材して頂きました。それを編集され、早速お昼のニュースで放映して頂いたのです。テレビでご覧になった方々が「テレビで見たよ」と言って来て頂き、この上ない喜びでした。その他のテレビ局も又新聞関係を含め、多くのメディアが取り上げてくださった事に深く感謝致しています。

会場には、地元だけでは拝見出来ない作風も多く、二科会の趣旨である、世界的視野に於ける新しい価値の創造を目標にして努力している者達の自由な表現の作品達が展示された会場から新鮮さを感じ取られ感動された方も多く、入場者も1,700人程になり、盛会裏に終了することが出来ました。

今回は長崎での開催の予定です。今後もお互いに刺激し合い向上していけたら良いなと思っています。ご支援・ご協力を賜わりました皆様に感謝。
(熊本支部長 木戸 征郎)

支部展の活性化と交流を旨に、総作品数65点(熊本36点/19名)(長崎29点/11名)で行われた第1回の合同展だったが、企画・運営を助成した私と両県の若い新会員が目当たりにしたのは、長らくおひとりで地元・九州を牽引されてこられた木戸征郎会員(熊本)、馬場一郎会員(長崎)の支部展への熱い想い、出品者との深いつながりや厚い信頼関係、地元への貢献と影響力。長い歴史を持つ二科会の大切な部分や場面を目撃したように思う。

また、懇親会では制作・出品するきっかけや、絵を描き続ける思いなどを多く語り合えた事も、二科会や支部に所属する原点を感じる機会となった。二科会趣旨のもと、個を磨き、個から集団へ熱き塊となって、近い明るい未来を今は見出すしかないが、皆で分かち合ったこの経験は素晴らしかったと信じる。

近いはずの熊本と長崎、巡回展での振り分けが異なるだけで、こんなに作風が違うものかと驚きました。熊本は労を惜しまず表現したい世界に迫ろうとする姿勢。長崎は素材、マチエルといった質感で表現したい世界に迫ろうとする姿勢。どちらも本気だったことが、今回の化学反応を大きくしたと思います。次回、長崎での合同展が楽しみです。
(長崎支部 山口 博司)

二科愛媛支部・高知支部合同展

地域支援 そして…。 中原 史雄

愛媛県立美術館での二科愛媛支部・高知支部合同展に合わせ、3月16日に西、中原両名で「自分らしい作品作り」という公開講座を開いた。現在は出品者がいなくなっている香川県、徳島県の人達も含め約50名の参加があって、次回に繋げられる手応えを感じている。

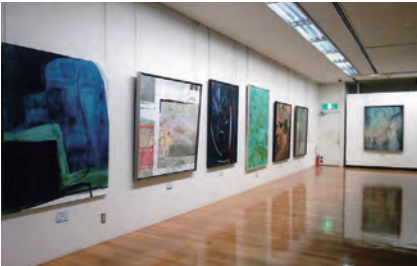
右の表のように四国は出品者が減少し、最近は、支部運営も個人に負うところが多くなり危機的な状態だ。さらに

	第74回展	第92回展	第103回展
香川	10	4	0
愛媛	14	15	9(2)
徳島	4	1	0
高知	6	7	7(2)

高知会員1 ()内は会友

西日本でいえば、岡山、鳥取、鳥根、大分の各県も同様。理事会では、そうした地域の支援体制を整えながら、何が出来るか模索していて、今回の講座もその一環である。

地域の支援とは別に大切な問題として、なかなか日の目を見られないベテラン出品者の事がある。各支部を支える一員でもあるその人達が、生き生きと絵を描くために、会として具体的に何が出来るのかについて思案中だが、ここで少し出過ぎたアドバイス。結果が出る出ないは、才能の有無ではない。ぜひ心掛けてほしいこと。出品する作品を、意気込んで描こうとする前に、あの広い国立新美術館の展示会場をイメージして、自分の表現をどう「見せる」かを考えてみる、しっかりと。あと一つ、ダメもとで挑むハートを持つことも。



ツチを今回も継続しています。ぜひ参加してください。今回は新たなコラボ企画として、起き上がりこぼしに絵付けや加工をした、ウクライナ・フランス・スペイン・イタリア等からの海外作品、ソシエテ・ナショナル・デ・ボザール作家作品、著名人、有名人などの作品100点ほどと、二科会会員の作品約100点の起き上がりこぼしがコラボ展示されます。また、別企画のキッズゲルニカの、二科会会員指導で福島の子供達が画いた作品は館内展示で、海外の子供達の描いた作品は野外展示会場に展示予定で、2階3階のコラボ展示会場の窓から俯瞰出来ます。今回は色々な盛りだくさんの企画のコラボ展示、たっぷりお楽しみください。

第104回二科展 日程表

8月

22日(木) 搬入(業者・個人)

23日(金) 搬入(個人) 16時まで

24日(土) 27日(火) 審査

28日(水) 入落通知発送

30日(金) 31日(土)

業者選外作品搬出

9月

1日(日) 選外作品搬出[彫刻]

2日(月) 3日(火)

個人選外作品搬出

3日(火) 展示日

4日(水) 展覧会初日

テークカット10時

オープニングトーク

[彫刻]11時

作品研究会

[絵画]12時 14時

授賞式14時

祝賀会18時

7日(土)

ギャラリートーク

[絵画]13時

8日(日)

ギャラリートーク

[絵画]13時

10日(火)

休館日

13日(金)

ミニコンサート18時

14日(土)

ギャラリートーク

[絵画]13時

15日(日)

ギャラリートーク

[絵画]13時

16日(月)

展覧会最終日

14時まで

搬出[彫刻]

17日(火)

搬出[絵画・彫刻]

18日(水)

搬出[絵画]

■二科富山支部発足

富山県内の二科展出品者

(絵画14名・彫刻1名・デザイン3名)で二科富山支部をスタートさせました。

18名と少人数ですが、お互いを高め、令和の歩みと共に成長したいと思います。

皆様方のご指導をお願いしまして、設立の挨拶いたします。(柳田 邦男)

■短信

若手作家のための公募、日動画廊・第54回昭和会展に、高木陽会友、U35大槻美菜実さんの作品が入選されました。

次世代の作家の広い視野での活躍を期待します。

■第104回二科展

チャリティー小品

ご協力をお願い

絵画部会員デッサン額小品は好評です。カット内寸サイズ14・5cm×9・4cm、デッサン額に収まる厚さで画材自由。審査会当日に広報担当まで。宜しくお願いいたします。

■ご注意

会員出品作品は裏木枠にヒートン装着をお忘れなく。(未装備作品は業者から請求されることがあります)

事務局だより

平成から令和に移る今年に入ってから数ヶ月、実に色々な事がありました。

事務局には多くの事柄が扇の要のように集まり、理事長・常務理事・理事会での判断を仰ぎながら情報を皆様に発信しています。

二月、公益社団法人二科会になって二度目の内閣府立入検査がありました。事業と経理についてのご指導は、二科展を所管する公益社団法人として、その役割の大きさを再確認いたしました次第です。

現在、二科展は単一組織で開催する展覧会ではなく「公益社団法人二科会」が核となつて管理し、一般社団法人二科会デザイン部と一般社団法人二科会写真部の二科展参加を承認して開催しています。各法人内部や法人相互の嘘のない信頼関係の積み重ねが何より大切だと感じております。

104回展は国外からのオファーもあり、ウクライナ大使館、フランス大使館、スペイン大使館、イタリア大使館の後援名義も頂くことになりました。3・11からの二科会の義援活動とは形は違いますが、フランス

から多くの国の人に「福島を忘れない」起き上がりこぼしプロジェクトを立ち上げ、発信し続けておられる服飾デザイナーの高田賢三様には各企画の実現に多大なるご尽力を頂き、また、二科会の義援活動の趣旨にご賛同頂いた、キッズゲルニカ国際子ども平和壁画プロジェクト委員会代表・大妻女子大学教授の金田卓也様との出会いでは、アートの力で世界に発信するきっかけを頂きました。深く感謝申し上げます。

福島県浪江町でのキッズゲルニカ作品は、現地の福島支部長・須田美紀子会員の綿密な下準備もあり、生方常務理事を団長に、理事の先生方の阿吽の呼吸の指導で無事大作が完成する事ができました。子供達は山を見れば「富士山だ」と大声をあげ、丸を描けば「ドーナツ食べた」と笑いを誘い、絵画のテクニクを披露すると「すごい」とすぐに吸収し実践。初めてのアクリル絵の具と格闘しながら富士山のそびえる大空に、なみえの絆をしっかりと結んで描き上げました。校長先生ができたがった作品を見て「この作品がなみえに戻って来て欲しいなあ」と

眩いておられたのが印象的でした。悲惨な報道を多々耳にする昨今、人への思いやりの心が何より大切だとつくづく感じています。

事務局長 埴 珠世

2019春季二科展の展示者数と展示点数

会場：東京都美術館 会期：2019年4月17日～4月24日

	(絵画)		(彫刻)		展示者数	展示点数
会員	151名	151点	52名 (会友9名を含む)	52点 (会友9点を含む)	203名	203点
選抜者	29名 (賞3名)	29点	8名	8点	37名	37点
計	180名	180点	60名	60点	240名	240点

編集後記

◆例年は萌える新緑の眩しい上野公園ですが、今年はい会期中にも名残の桜が見

れました。◆春季3賞は本展規約を超えた大作画面をまとめた会友2名と一般出品者1名が受賞されました。◆103回二科展巡回展は、会場改修などで5都市での開催。各巡回地独自の催事や会場の報告です。

◆104回展を前に、各地では支部展、研究会の開催がありました。東北連合展や北海道支部など回を重ねた成果の上がる支部展、また、熊本・長崎合同展などの心強い支部活動報告です。一方、会員不在や出品者が少ない支援地区の現状を担当理事から。◆Q&Aは全国公募の二科展の礎となる支部組織について、総務理事に回答いただきました。新出品者や同人方々にご案内ください。(N)

編集委員

委員長(絵) 野村 みそら
委員(絵) 田川 絵理
" " 尾崎 ゆき子
" " 谷口 貞久
" (彫) 廣瀬 友彦
" " 宮澤 光造

令和元年六月三十日発行

公益社団法人 二科会

〒100-0022

東京都新宿区新宿4-3-15

レイファット新宿 501号室

電話 03(33554) 6646

FAX 03(33554) 4768